戦国時代

名前

問1　日本地図において、中国地方の日本海側に面した島根県に所在し、かつて「灰吹法」という技術を導入して生産量を飛躍的に高めた銀山を次の中から選びなさい。（2016年 鳥取県公立入試 類似）

1. 富岡製糸場
2. 生野銀山
3. 石見銀山
4. 足尾銅山

問2　室町幕府の権威が衰退した戦国時代、各地で実力を持った戦国大名が登場しました。彼らが幕府の法律に頼らず、自らの領国を独自に支配し、家臣や民衆を統制するために制定した法律を何といいますか。（2022年 和歌山県公立入試 類似）

1. 分国法
2. 公事方御定書
3. 武家諸法度
4. 御成敗式目

問3　戦国時代、室町幕府の支配力が弱まる中で、各地の戦国大名が自らの領国内の家臣や領民を統制するために独自に定めた法律を何と呼びますか。（2020年 佐賀県公立入試 類似）

1. 御成敗式目
2. 武家諸法度
3. 公事方御定書
4. 分国法（家法）

問4　ヨーロッパからアジアへ向かう海上航路において、アフリカ大陸の南端に位置し、中継地点として重要な役割を果たした場所の名称として正しいものはどれですか。（2020年 新潟県公立入試 類似）

1. 喜望峰
2. マゼラン海峡
3. スエズ運河
4. パナマ運河

問5　戦国大名が領地の生産力を高め、軍事力を強化する（富国強兵）ために行った政策の説明として、正しいものはどれですか。（2017年 大分県公立入試 類似）

1. 大規模な治水・灌漑工事を行って新田開発を進めるとともに、金山や銀山などの鉱山開発を積極的に行った。
2. 農民に「五人組」を組織させて連帯責任を負わせることで、年貢の納入を確実なものにしようとした。
3. 領内の商人を城下町に集めるのではなく、各地の農村に分散させて住まわせることで、地方経済の安定を図った。
4. キリスト教の布教を全国的に推奨することで、ヨーロッパの先進的な武器や文化を組織的に取り入れようとした。

問6　戦国時代、九州の種子島に伝来した武器をきっかけとして始まった南蛮貿易について、当時の状況を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2016年 長野県公立入試 類似）

1. 銀や銅を輸出する代わりに、欧米から蒸気機関などの近代技術が導入された。
2. 幕府の許可を得た朱印船により、東南アジア諸国との間で盛んに行われた。
3. キリスト教の布教を伴い、鉄砲や火薬などの軍事物資が輸入された。
4. キリスト教の布教は厳しく制限され、貿易の窓口は長崎の出島に限定された。

問7　1543年に種子島に漂着した船により、日本に初めて鉄砲が伝えられました。当時の種子島の鍛冶職人がその仕組みを学び国産化を進めたといわれる、この武器を日本に伝え、後に長崎などを拠点にキリスト教の布教を伴う貿易を行った国はどこですか。（2016年 長野県公立入試 類似）

1. オランダ
2. スペイン
3. イギリス
4. ポルトガル

問8　戦国大名が領国内の統制を図るために定めた「分国法」の性質について説明したものとして、正しいものはどれですか。（2024年 東京都公立入試 類似）

1. 大名が自分の領国内にのみ適用した独自の法律であり、地域の実情に応じた内容であった。
2. 豊臣秀吉が全国を統一した後、農民から武器を取り上げるために発令したものであった。
3. 源頼朝が全国の守護や地頭に対して、公家との紛争を公平に裁くために制定したものであった。
4. 日本で最初の本格的な法律であり、天皇を中心とした律令国家の仕組みを定めたものであった。

問9　日本の戦国時代にあたる16世紀、ドイツのマルティン・ルターが、当時のカトリック教会の腐敗を批判したことから始まったキリスト教の改革運動を何といいますか。（2018年 福島県公立入試 類似）

1. ルネサンス
2. 宗教改革
3. 産業革命
4. 十字軍

問10　1543年に日本の種子島へ鉄砲が伝来した時期、ヨーロッパではドイツのルターがローマ教皇や教会の権威を否定する動きを見せていました。このルターから始まった、キリスト教のあり方を問い直す一連の運動を何と呼びますか。（2019年 大分県公立入試 類似）

1. 産業革命
2. 十字軍
3. 宗教改革
4. ルネサンス

問11　日本の戦国時代に相当する16世紀、ヨーロッパではキリスト教のあり方をめぐって大きな動きがありました。カトリック教会の腐敗を批判し、聖書を信仰のよりどころとする「宗教改革」を始めた人物は誰ですか。（2023年 栃木県公立入試 類似）

1. ルター
2. クビライ・ハン
3. ワシントン
4. ナポレオン

問12　日本の歴史における主要な出来事を時系列で整理したとき、鎌倉幕府の成立、室町幕府の成立、応仁の乱に続いて、16世紀に発生した出来事としてふさわしいものはどれですか。（2020年 京都府公立入試 類似）

1. 種子島への鉄砲の伝来
2. 元寇による博多への侵攻
3. 日明貿易（勘合貿易）の開始
4. 御成敗式目の制定

問13　室町時代から戦国時代にかけて、家臣が主君に打ち勝って実力を伸ばすなどの風潮が広がりました。このような下剋上の風潮の中で、戦国大名が家臣の行動を取りしまり、領国を独自に支配するために定めた法律を何といいますか。（2026年 岩手県公立入試 類似）

1. 分国法
2. 武家諸法度
3. 御成敗式目
4. 公家諸法度

問14　戦国大名の武田氏にゆかりのある、現在の山梨県に位置する武田神社付近には、かつて大名の館を中心とした町が形成されていました。このように大名が家臣や商工業者を集めて町を作った主な目的として、最も適切な説明はどれですか。（2016年 千葉県公立入試 類似）

1. 家臣を一定の場所に集めて統制し、商工業を振興して領国の経済と軍事を支えるため
2. 海外との貿易を独占するために、海岸線に面した土地に防衛拠点を築くため
3. 有力な寺社への参拝客を増やすことで、宗教的な権威を利用して領民を支配するため
4. 交通の要所に休憩所を設けることで、旅人の利便性を高め、通行税を徴収するため

問15　室町時代から戦国時代にかけて見られた、実力のある下の者が上の者を倒し、その地位を奪い取るという社会的な風潮を何と呼びますか。（2018年 秋田県公立入試 類似）

1. 惣村
2. 下請け
3. 寄合
4. 下剋上

答え合わせ・解説

問1	答え 3 石見銀山	石見銀山では、鉱石から銀を取り出す「灰吹法（はいふきほう）」という技術が導入されたことで、生産量が急増しました。兵庫県の生野銀山や、愛媛県に位置し銅を産出した別子銅山などと混同しやすいですが、島根県という立地と、大航海時代の世界経済に影響を与えた規模の大きさが石見銀山の大きな特徴です。
問2	答え 1 分国法	室町幕府の支配力が弱まり、各地の守護大名が自らの実力で領地を治める戦国大名へと成長する過程で、独自のルールが必要となりました。これを分国法（または「家法」）と呼びます。鎌倉幕府の御成敗式目や江戸幕府の武家諸法度とは異なり、各大名が自分の領国内だけで適用するために定めたという点が特徴です。
問3	答え 4 分国法（家法）	室町幕府の権威が衰退し、守護大名が自立して戦国大名へと成長する過程で、自らの力で領国を維持・統治する必要が生じました。そこで、大名は幕府の法律に頼らず、独自の統治ルールとして分国法を制定しました。今川氏の『今川仮名目録』や武田氏の『甲州法度之次第』などがその代表例です。
問4	答え 1 喜望峰	アフリカ大陸の最南端付近にあるこの地点は、ポルトガルの航海者バルトロメウ・ディアスによって到達され、のちにバスコ・ダ・ガマがここを通過してインド洋へと入り、インドへの航路を確立しました。大航海時代におけるインド航路の象徴的な中継地点です。
問5	答え 1 大規模な治水・灌漑工事を行って新田開発を進めるとともに、金山や銀山などの鉱山開発を積極的に行った。	戦国大名は、戦いに必要な兵糧や資金を確保するため、農業と鉱業の振興に力を入れました。暴れ川を抑えるための治水・灌漑によって田畑を増やし、金山や銀山の開発によって得た富を軍事費や外交資金に充てました。なお、「五人組」の制度は江戸時代に確立されたものであり、戦国時代の制度ではありません。
問6	答え 3 キリスト教の布教を伴い、鉄砲や火薬などの軍事物資が輸入された。	ポルトガルとの南蛮貿易では、戦国大名たちが武力強化のために鉄砲やその原料となる硝石（火薬の原料）を強く求めました。宣教師たちは貿易の利益を背景に布教活動への協力を求め、多くの戦国大名が貿易の利潤を得るためにキリスト教の布教を許可しました。
問7	答え 4 ポルトガル	1543年に種子島へ鉄砲を伝えたのはポルトガル人です。この出来事をきっかけに、日本国内で鉄砲の量産が始まり、戦国時代の戦術が大きく変化しました。また、ポルトガルとの貿易は「南蛮貿易」と呼ばれ、キリスト教の布教と密接に結びついていたことが特徴です。
問8	答え 1 大名が自分の領国内にのみ適用した独自の法律であり、地域の実情に応じた内容であった。	分国法は、駿河国の「今川仮名目録」や甲斐国の「甲州法度之次第」のように、各戦国大名がそれぞれの領国の維持・発展のために独自に定めた法典です。幕府による全国一律の支配が及ばなくなった時代において、各大名が家臣の統制や年貢の確保、領民の管理などを目的として作成しました。他の選択肢にある大宝律令や御成敗式目、刀狩令とは時代や制定主体が異なります。
問9	答え 2 宗教改革	16世紀のヨーロッパでは、カトリック教会が免罪符（贖宥状）を販売するなど腐敗が進んでいました。これに対しドイツのルターは「九十五ヶ条の論題」を発表して教会を批判し、信仰のよりどころを教会ではなく聖書に求めるべきだと説きました。この動きはヨーロッパ全土に広がり、プロテスタントと呼ばれる新しい派閥が生まれるきっかけとなりました。
問10	答え 3 宗教改革	16世紀半ば、カトリック教会の腐敗を批判したルターは、聖書の教えこそが信仰の拠り所であると主張しました。この動きは「宗教改革」と呼ばれ、後にプロテスタントと呼ばれる新しい派閥を生むとともに、カトリック側による海外布教（イエズス会の結成など）を促すきっかけとなり、日本へのキリスト教伝来にも大きな影響を与えました。
問11	答え 1 ルター	16世紀のドイツにおいて、神学教授であったルターは、カトリック教会が教会の改築資金を集めるために免罪符（贖宥状）を販売していることを批判しました。これが宗教改革の始まりとなり、後にプロテスタントと呼ばれる新しい宗派が生まれるきっかけとなりました。同時期の日本は室町時代末期から安土桃山時代にあたる戦国時代でした。
問12	答え 1 種子島への鉄砲の伝来	鎌倉時代の御成敗式目制定や元寇、室町時代の幕府成立や応仁の乱を経て、戦国時代に入った1543年にポルトガル人によって鉄砲が伝えられました。これは時系列において、室町幕府が衰退し戦国大名が台頭する時期にあたります。
問13	答え 1 分国法	戦国大名が自らの領国を統治し、家臣の行動を取りしまるために定めた独自の法律を「分国法」といいます。江戸幕府が大名を統制するために定めた「武家諸法度」と混同しないように注意が必要です。
問14	答え 1 家臣を一定の場所に集めて統制し、商工業を振興して領国の経済と軍事を支えるため	戦国大名は、家臣を城の周囲に集住させる（集住政策）ことで、反乱を防ぐとともに戦時に素早く動員できる体制を整えました。また、商工業者に特権を与えて城下に呼び寄せ、城下町を経済の拠点とすることで、合戦に必要な物資や資金を安定して確保しようとしました。これに対して、寺社の門前に発展した町は門前町、交通の要所に発展した町は宿場町と呼ばれます。
問15	答え 4 下剋上	応仁の乱以降、足利将軍家や守護大名の権威が失墜する中で、各地で実力を持つ者が地位を奪う現象が目立ちました。この言葉は当時の不安定ながらも活力のある社会情勢を象徴しています。

戦国時代

名前

問1　戦国大名の朝倉氏が、拠点である一乗谷において、それまで各領地にいた有力な家臣をすべて城下町に移住させた目的として、最も適切な説明を選びなさい。（2022年 熊本県公立入試 類似）

1. 家臣に領地の経営を完全に任せることで、大名が外交や文化活動に専念するため
2. 家臣に独自の関所を設置させることで、商工業者から税を徴収しやすくするため
3. 家臣を農村から切り離して監視下に置き、大名の支配力と軍事動員力を高めるため
4. 家臣を海外貿易の拠点に近い沿岸部に集め、輸入品を独占的に管理させるため

問2　日本の歴史における13世紀から16世紀にかけての外交や出来事について、年代の古い順（先に起きた順）に並べたものとして正しい組み合わせはどれですか。（2023年 神奈川県公立入試 類似）

1. 北九州の博多湾などに元軍が2度にわたり襲来した。→ フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。→ 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。
2. 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。→ 北九州の博多湾などに元軍が2度にわたり襲来した。→ フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。
3. 北九州の博多湾などに元軍が2度にわたり襲来した。→ 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。→ フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。
4. フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。→ 北九州の博多湾などに元軍が2度にわたり襲来した。→ 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。

問3　戦国時代において、武田氏や今川氏などの戦国大名が、自らの領国内を統治し、家臣や民衆を直接支配するために独自に制定した法律を何というか。（2021年 京都府公立入試 類似）

1. 分国法
2. 御成敗式目
3. 武家諸法度
4. 公家諸法度

問4　戦国時代、現在の福井県にあたる北陸地方の要所に位置し、戦国大名の朝倉氏が有力な家臣を城下町へ集住させて築き上げた拠点の名称を選びなさい。（2022年 熊本県公立入試 類似）

1. 一乗谷
2. 山口
3. 小田原
4. 安土

問5　大航海時代において、ポルトガルの航海者バスコ＝ダ＝ガマがインド航路の開拓に成功したことが、その後のヨーロッパ諸国に与えた影響として最も適切な説明はどれですか。（2018年 大阪府公立入試 類似）

1. 宗教改革が始まり、キリスト教の布教を目的とした航海が中止された
2. 大西洋を西に進む航路が否定され、すべての探検家がアフリカ経由を目指すようになった
3. アメリカ大陸への植民地支配が終了し、交易の拠点がすべてアジアへ移った
4. 香辛料の直接取引が可能になり、それまで地中海貿易で栄えていた都市が衰退した

問6　戦国時代の九州において、ポルトガルやスペインとの南蛮貿易の利益を得ることを目的の一つとして、みずからキリスト教に入信し、宣教師を保護した大名を総称して何と呼びますか。（2025年 京都府公立入試 類似）

1. 寄親
2. キリシタン大名
3. 守護大名
4. 戦国大名

問7　16世紀のヨーロッパでは、既存の教会のあり方を批判する動きから宗教改革が起こり、新教とも呼ばれるプロテスタントが誕生しました。この宗教的な対立が、当時のポルトガルやスペインといったカトリック諸国の海外進出にどのような影響を与えたか、最も適切な説明を選びなさい。（2021年 愛知県公立入試 類似）

1. プロテスタント諸国が海外進出を独占したため、カトリック諸国は布教よりも国内の防衛を優先させた。
2. プロテスタントの勢力拡大に直面したカトリック側が、失った勢力を回復するために海外での布教活動を強化した。
3. 宗教改革によってキリスト教の権威が失墜したため、ヨーロッパ諸国は布教を目的とした海外進出を完全に停止した。
4. カトリックとプロテスタントの両勢力が協力体制を築き、イスラム教圏を回避するための新しい航路を開拓した。

問8　1543年、九州の南方に位置する種子島に漂着した中国船に乗っていた人々によって、日本に初めて鉄砲が伝えられました。このとき、日本に鉄砲を伝えたのはどこの国の人々ですか。（2016年 千葉県公立入試 類似）

1. ポルトガル人
2. スペイン人
3. イギリス人
4. オランダ人

問9　16世紀半ば、種子島に漂着した西欧人との交流によって日本にもたらされた武器について、その名称と伝えた人々の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2024年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 日本刀をオランダ人が伝えた。
2. 弓矢を中国（明）の商人が伝えた。
3. 大砲をスペイン人が伝えた。
4. 火縄銃をポルトガル人が伝えた。

問10　戦国大名の本拠地として発達した「城下町」の形成と役割について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2017年 大分県公立入試 類似）

1. 海外との貿易を独占するため、すべての城下町は海岸沿いの港町に隣接して造られた。
2. 大名が家臣や商工業者を城の周辺に集めて住まわせ、政治・軍事・経済の拠点とした。
3. 戦乱による被害を避けるため、城の周囲には武士のみを住まわせ、商人には立ち入りを禁じた。
4. 農民が武器を持って城下町に集まることを推奨し、有事の際の防衛力を高めた。

問11　1543年に日本の種子島へ鉄砲が伝来した時期、ヨーロッパではドイツのルターがローマ教皇や教会の権威を否定する動きを見せていました。このルターから始まった、キリスト教のあり方を問い直す一連の運動を何と呼びますか。（2019年 大分県公立入試 類似）

1. 宗教改革
2. ルネサンス
3. 十字軍
4. 産業革命

問12　南蛮貿易によってもたらされた鉄砲と、当時の都市の関わりについて述べた文として、背景や理由を含めて正しく説明しているものはどれですか。（2020年 群馬県公立入試 類似）

1. 堺などの有力な商人が自治を行う都市では、高度な鍛冶技術を活かして鉄砲が生産され、各地の大名に供給された
2. 寺院が鉄砲の製造を独占したため、鉄砲の生産拠点となった都市では宗教勢力による支配が強まった
3. 鉄砲の製造に必要な火薬の原料が国内で豊富に採れたため、城下町ごとに小規模な自給自足の生産体制が整った
4. 江戸幕府の成立まで鉄砲の国内生産は禁止されていたため、長崎の出島を通じてのみ取引が行われた

問13　加賀の一向一揆が、同時期に発生した「土一揆」などの他の社会運動と異なり、守護大名を倒して約100年もの長期にわたる自治を維持できた最大の要因として、最も適切なものはどれですか。（2026年 高知県公立入試 類似）

1. 守護大名が自ら権限を放棄し、農民たちに土地の所有権と徴税権を全面的に譲渡したから。
2. 浄土真宗（一向宗）という宗教的な信仰を通じて、農民や地侍が極めて強固に団結していたから。
3. 加賀国においてのみ、鉄砲などの新式兵器を輸入するための自由貿易港が独占的に認められていたから。
4. 惣村と呼ばれる村の自治組織が、室町幕府の将軍から直接的な軍事的支援を受けていたから。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 家臣を農村から切り離して監視下に置き、大名の支配力と軍事動員力を高めるため	戦国大名は、家臣が自分の領地に深く根を下ろしていると反乱の恐れがあると考え、一乗谷のような拠点に家臣を住まわせることで直接的な監視を行いました。同時に、一箇所に家臣やその兵力を集めることで、戦時に迅速な出陣が可能となる軍制を構築しました。これは、後の豊臣秀吉らによる「兵農分離」へとつながる重要な政策です。
問2	答え 3 北九州の博多湾などに元軍が2度にわたり襲来した。→ 足利義満が勘合を用いて明と貿易を開始した。→ フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が伝えられた。	元軍の襲来である「元寇」は13世紀後半（鎌倉時代後半）、足利義満による「日明貿易」の開始は15世紀初め（室町時代）、そしてフランシスコ・ザビエルによる「キリスト教伝来」は1549年（戦国時代）です。それぞれ、鎌倉・室町・戦国の各時代を象徴する重大な外交上の出来事です。
問3	答え 1 分国法	室町幕府の権威が衰退した戦国時代において、各地の戦国大名が自らの実力で領国を治めるために定めた独自の法を分国法（家法）と呼びます。これによって、大名は幕府の法に縛られることなく、独自のルールで領内を統制しました。
問4	答え 1 一乗谷	越前国（現在の福井県）を支配した朝倉氏は、一乗谷を拠点として栄華を極めました。それまで各地の領地に分散していた有力な家臣を城下町に強制的に住まわせる「集住」を行うことで、大名による統制を強め、軍事力を集中させる体制を整えました。この仕組みは、後の近世城下町の先駆けとなりました。
問5	答え 4 香辛料の直接取引が可能になり、それまで地中海貿易で栄えていた都市が衰退した	インド航路の発見により、貿易の主役が地中海から大西洋に面した国々へと移りました。これにより、ベネチアなどのイタリア諸都市が行っていた、イスラム勢力を仲介とする従来の貿易ルートは大きな打撃を受けました。
問6	答え 2 キリシタン大名	九州や近畿地方の戦国大名の中には、貿易による経済的利益や、鉄砲・火薬などの軍事物資を入手するために宣教師を保護し、自らも洗礼を受ける者が現れました。このような大名はキリシタン大名と呼ばれ、代表的な人物に大友宗麟などがいます。
問7	答え 2 プロテスタントの勢力拡大に直面したカトリック側が、失った勢力を回復するために海外での布教活動を強化した。	16世紀にルターやカルバンらが始めた宗教改革により、ヨーロッパではプロテスタントの勢力が拡大し、カトリック教会は大きな危機に直面しました。これに対抗するため、カトリック教会は内部改革を行うとともに、アジアやアメリカ大陸などの海外において新たな信者を獲得し、勢力を立て直そうとしました。イエズス会の設立やポルトガル・スペインによる積極的な海外進出には、このような宗教的な対抗意識と背景がありました。
問8	答え 1 ポルトガル人	16世紀半ば、東アジアに進出していたポルトガル人が、種子島に漂着した中国船に乗っていたことから、日本に初めて鉄砲がもたらされました。当時の種子島島主であった種子島時堯（ときたか）がこれを買い取り、国産化を命じたことで、日本国内での製造と普及が始まりました。
問9	答え 4 火縄銃をポルトガル人が伝えた。	1543年に種子島へ漂着したポルトガル人によって、火縄銃（鉄砲）が日本に初めて伝えられました。当時の種子島の領主はこれを買い取り、刀鍛冶に命じて仕組みを研究させ、国産化を成功させました。これがきっかけとなり、鉄砲は瞬く間に日本全国の戦国大名の間へ普及することとなりました。
問10	答え 2 大名が家臣や商工業者を城の周辺に集めて住まわせ、政治・軍事・経済の拠点とした。	戦国大名は、それまで各地の領地に散らばっていた家臣を城の周囲に集住させることで、軍事的な動員を容易にし、統制を強めました。また、商工業者も呼び寄せることで、武器の製造や物資の流通を活発化させ、領国の経済を発展させました。これが後の近世都市の原型となりました。
問11	答え 1 宗教改革	16世紀半ば、カトリック教会の腐敗を批判したルターは、聖書の教えこそが信仰の拠り所であると主張しました。この動きは「宗教改革」と呼ばれ、後にプロテスタントと呼ばれる新しい派閥を生むとともに、カトリック側による海外布教（イエズス会の結成など）を促すきっかけとなり、日本へのキリスト教伝来にも大きな影響を与えました。
問12	答え 1 堺などの有力な商人が自治を行う都市では、高度な鍛冶技術を活かして鉄砲が生産され、各地の大名に供給された	堺は古くから鋳物や刀剣の製造が盛んであり、その高い技術力が鉄砲の量産を支えました。また、堺は「会合衆」と呼ばれる豪商たちによる自治が行われていた自由都市であり、特定の戦国大名に完全に支配されることなく、各地の大名を顧客として鉄砲を販売することで大きな利益を上げ、さらに都市として発展しました。
問13	答え 2 浄土真宗（一向宗）という宗教的な信仰を通じて、農民や地侍が極めて強固に団結していたから。	加賀の一向一揆の最大の特徴は、浄土真宗の信仰に基づく組織的な団結力にあります。各地の寺院を拠点に、武士だけでなく一般の農民までが教えのもとに結集したことで、従来の守護大名の支配を跳ね返すほどの軍事力と政治力を持つに至りました。この宗教的なネットワークが、単なる不満による一時的な暴動（土一揆）とは異なる、持続的な自治体制を支える基盤となりました。

戦国時代

名前

問1　応仁の乱ののち、各地に登場した戦国大名が、自らの領内の武士や農民の行動を厳しく取り締まり、領地の安定と統治を強めるために独自に制定した法律を何といいますか。（2016年 群馬県公立入試 類似）

1. 武家諸法度
2. 御成敗式目
3. 公事方御定書
4. 分国法

問2　戦国大名が、室町幕府の法律があるにもかかわらず、独自に分国法を制定する必要があった背景として最も適切な理由はどれか。（2021年 京都府公立入試 類似）

1. 室町幕府の支配力が弱まり、大名が自力で領内の武士を統制し、領民を保護して団結させる必要があったため。
2. 貨幣経済が浸透し、外国との貿易による利益を独占するために全国共通の商業ルールが必要になったため。
3. 元寇による社会の混乱を鎮め、分割相続によって困窮した御家人の生活を救済する必要があったため。
4. キリスト教の布教を制限し、仏教を基盤とした道徳的な領国経営を行う必要があったため。

問3　戦国時代の社会において、大名の本拠地として栄えた都市の事例として、越前（福井県）の朝倉氏が築き、家臣の屋敷や商人の住まいが計画的に配置されていたことで知られる場所はどこですか。（2016年 千葉県公立入試 類似）

1. 堺
2. 博多
3. 石山
4. 一乗谷

問4　戦国大名の本拠地として発達した「城下町」の形成と役割について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2017年 大分県公立入試 類似）

1. 農民が武器を持って城下町に集まることを推奨し、有事の際の防衛力を高めた。
2. 戦乱による被害を避けるため、城の周囲には武士のみを住まわせ、商人には立ち入りを禁じた。
3. 大名が家臣や商工業者を城の周辺に集めて住まわせ、政治・軍事・経済の拠点とした。
4. 海外との貿易を独占するため、すべての城下町は海岸沿いの港町に隣接して造られた。

問5　1549年に鹿児島へ上陸し、日本に初めてキリスト教を伝えたイエズス会の宣教師は誰か。（2017年 北海道公立入試 類似）

1. フランシスコ＝ザビエル
2. ルイス＝フロイス
3. ヴァリニャーノ
4. マテオ＝リッチ

問6　戦国時代、各地の有力な戦国大名が自らの領国内の秩序を維持し、家臣や領民を統制するために独自に制定した法律を何といいますか。（2024年 奈良県公立入試 類似）

1. 永仁の徳政令
2. 公事方御定書
3. 墾田永年私財法
4. 分国法

問7　戦国時代、鉄砲の伝来などにより戦術が変化し、大規模な軍事力とそれを支える安定した領地経営が不可欠となりました。こうした中、戦国大名が領国内の紛争を禁じたり、年貢の徴収を確実にしたりする目的で定めた「分国法」の性質として、最も適切な説明はどれですか。（2022年 和歌山県公立入試 類似）

1. 戦国大名が、室町幕府の法によらずに自らの領土を統治するために独自に定めた法律である。
2. 幕府の許可を得た大名だけが、他国との貿易を制限するために定めた規則である。
3. 朝廷が全国の公家や武士に対して一律に適用した法律である。
4. 鎌倉時代の慣習法を整理し、武士の裁判を公平に行うために幕府が定めた法律である。

問8　室町時代後期から戦国時代にかけて、幕府の権威が衰える中で、各地の戦国大名が自分の領国内を統治し、家臣団を統制するために独自に制定した法律の総称を何といいますか。（2023年 山口県公立入試 類似）

1. 御成敗式目
2. 分国法
3. 公事方御定書
4. 武家諸法度

問9　室町時代後期から戦国時代にかけて、各地の実力者が幕府の法に頼らず、自らの領国内を統治するために独自に制定した法律を何といいますか。（2024年 岡山県公立入試 類似）

1. 御成敗式目
2. 公事方御定書
3. 武家諸法度
4. 分国法

問10　戦国大名の武田氏にゆかりのある、現在の山梨県に位置する武田神社付近には、かつて大名の館を中心とした町が形成されていました。このように大名が家臣や商工業者を集めて町を作った主な目的として、最も適切な説明はどれですか。（2016年 千葉県公立入試 類似）

1. 海外との貿易を独占するために、海岸線に面した土地に防衛拠点を築くため
2. 交通の要所に休憩所を設けることで、旅人の利便性を高め、通行税を徴収するため
3. 有力な寺社への参拝客を増やすことで、宗教的な権威を利用して領民を支配するため
4. 家臣を一定の場所に集めて統制し、商工業を振興して領国の経済と軍事を支えるため

問11　戦国時代において、武田氏や今川氏などの戦国大名が、自らの領国内を統治し、家臣や民衆を直接支配するために独自に制定した法律を何というか。（2021年 京都府公立入試 類似）

1. 武家諸法度
2. 公家諸法度
3. 分国法
4. 御成敗式目

問12　島根県に位置し、戦国時代から江戸時代にかけて大量の良質な銀を生産したことで知られ、2007年にはその歴史的価値が認められて世界文化遺産に登録された鉱山を選んでください。（2019年 和歌山県公立入試 類似）

1. 足尾銅山
2. 佐渡金山
3. 生野銀山
4. 石見銀山

問13　戦国時代、石見銀山などの鉱山開発が各地で盛んに行われた背景として、戦国大名が銀を求めた主な目的について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2023年 岐阜県公立入試 類似）

1. 朝廷から高い官位を得るための献上物として独占するため
2. キリスト教の布教活動を支えるための寄付金として活用するため
3. 鉄砲や火薬などの軍需品を調達する資金や、家臣への恩賞とするため
4. 農村での貨幣経済を禁止し、年貢をすべて銀で納めさせるため

問14　戦国時代に各地を支配した戦国大名の多くは、「下剋上」という風潮の中で台頭しました。この時代における「下剋上」の説明として、当時の社会状況をふまえた最も適切なものはどれですか。（2016年 静岡県公立入試 類似）

1. 農民たちが宗教的な団結を強めることで、武士の支配を実力で排除して自治を行った。
2. 朝廷の権威を背景とした下級武士が、実力行使によって幕府の政治を批判し、地位を向上させた。
3. 下の者が実力で上の者に打ち勝って地位を奪い、新たな領主として領国支配を広げていった。
4. 幕府から任命された守護が、自らの実力を高めて隣国を吸収し、支配権を世襲していった。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 分国法	室町幕府の権威が衰えた戦国時代、各地の戦国大名は実力で領地を支配する必要がありました。そこで、家臣同士の私的な争いを禁じる「喧嘩両成敗」の原則などを盛り込んだ独自の法を定め、領国内の秩序を維持しようとしました。鎌倉時代の御成敗式目や、江戸時代の武家諸法度とは制定された時代や目的が異なります。
問2	答え 1 室町幕府の支配力が弱まり、大名が自力で領内の武士を統制し、領民を保護して団結させる必要があったため。	応仁の乱以降、室町幕府の権威が失墜し、全国的な法秩序が機能しなくなりました。下剋上の風潮の中で生き残るため、戦国大名は独自の法を設けることで家臣の勝手な行動を制限し、領内を一貫して支配する体制を整える必要がありました。
問3	答え 4 一乗谷	一乗谷は、戦国大名朝倉氏の拠点となった代表的な城下町です。発掘調査により、武家屋敷や職人の住まい、庭園などが非常に良好な状態で確認されており、当時の都市の様子を伝える貴重な史跡となっています。選択肢にある堺や博多は、商人たちによる自治が行われていた港町であり、石山は浄土真宗の寺院を中心とした寺内町（じないちょう）の性格が強い場所です。
問4	答え 3 大名が家臣や商工業者を城の周辺に集めて住まわせ、政治・軍事・経済の拠点とした。	戦国大名は、それまで各地の領地に散らばっていた家臣を城の周囲に集住させることで、軍事的な動員を容易にし、統制を強めました。また、商工業者も呼び寄せることで、武器の製造や物資の流通を活発化させ、領国の経済を発展させました。これが後の近世都市の原型となりました。
問5	答え 1 フランシスコ＝ザビエル	スペイン出身でイエズス会の創立会員の一人です。インドのゴアで出会った日本人アンジロウ（ヤジロウ）の案内で来日しました。その後、平戸や山口、豊後（大分）などで布教活動を行いました。ルイス＝フロイスは後に来日し『日本史』を記した人物、ヴァリニャーノは天正遣欧少年使節の派遣を勧めた人物であり、活動時期や内容が異なります。
問6	答え 4 分国法	室町幕府の権威が衰退した戦国時代、各地の戦国大名は、幕府の法（幕府法）に頼らず自らの力で領国を統治する必要がありました。そこで、家臣同士の私闘を禁じる「喧嘩両成敗」の規定や、農民の管理、寺社の統制などを盛り込んだ独自の法典を定めました。これを分国法、または家法と呼びます。
問7	答え 1 戦国大名が、室町幕府の法によらずに自らの領土を統治するために独自に定めた法律である。	戦国時代には戦術が騎馬戦から足軽や鉄砲を用いた集団戦へと変化し、大名は家臣や農民を効率的に動員する必要がありました。そのため、幕府の権威を否定し、自分の領国内（分国）のルールを自分自身で決定する分国法が作られました。これには「喧嘩両成敗」のように私的な争いを禁じ、大名による裁判を徹底させる内容などが含まれています。
問8	答え 2 分国法	室町幕府の力が弱まり、実力で領地を支配する下剋上の世の中になると、戦国大名は幕府の法に頼らずに自らの領国を治める必要が生じました。そこで、領地内の秩序維持や家臣同士の私的な争いを禁じるために独自の法を定めました。武田氏の「甲州法度之次第」や今川氏の「今川仮名目録」などがその代表例です。
問9	答え 4 分国法	応仁の乱以降、室町幕府の権威が衰退したため、各地の戦国大名は自分の力で領国を維持・発展させる必要がありました。そこで、家臣同士の争いを裁いたり、領国内の治安を維持したりするために、独自に制定した法が「分国法」です。今川氏の「今川仮名目録」や武田氏の「甲州法度之次第」などが有名です。
問10	答え 4 家臣を一定の場所に集めて統制し、商工業を振興して領国の経済と軍事を支えるため	戦国大名は、家臣を城の周囲に集住させる（集住政策）ことで、反乱を防ぐとともに戦時に素早く動員できる体制を整えました。また、商工業者に特権を与えて城下に呼び寄せ、城下町を経済の拠点とすることで、合戦に必要な物資や資金を安定して確保しようとしました。これに対して、寺社の門前に発展した町は門前町、交通の要所に発展した町は宿場町と呼ばれます。
問11	答え 3 分国法	室町幕府の権威が衰退した戦国時代において、各地の戦国大名が自らの実力で領国を治めるために定めた独自の法を分国法（家法）と呼びます。これによって、大名は幕府の法に縛られることなく、独自のルールで領内を統制しました。
問12	答え 4 石見銀山	戦国時代から江戸時代にかけて、日本は世界有数の銀産出国でした。特に島根県の石見銀山は、16世紀に導入された「灰吹法（はいふきほう）」という新しい精錬技術によって生産量が飛躍的に増大しました。この銀は「ソーマ銀」とも呼ばれ、東アジアやヨーロッパとの交易においても重要な役割を果たしました。2007年に、環境に配慮した鉱山運営や流通の歴史が評価され、世界文化遺産に登録されています。
問13	答え 3 鉄砲や火薬などの軍需品を調達する資金や、家臣への恩賞とするため	戦国大名は、自国の軍事力を強化するために多額の資金を必要としていました。特に種子島に伝来した鉄砲やその弾薬となる鉛、火薬の原料となる硝石を海外から購入するための支払い手段として、また功績のあった家臣への報酬として、銀は極めて重要な価値を持っていました。
問14	答え 3 下の者が実力で上の者に打ち勝って地位を奪い、新たな領主として領国支配を広げていった。	戦国時代には、本来は主君に仕える立場であった守護代や国人などが、武力などの実力によって守護大名を追放したり、倒したりして自らが戦国大名へと成長する事例が多く見られました。これにより、室町幕府の任命に基づかない新しい支配体制が各地に形成されました。他の選択肢は一向一揆や守護大名の強化、幕末の動きを説明したものです。

戦国時代

名前

問1　1543年に種子島へ伝来した鉄砲が、戦国時代の日本において急速に普及し、合戦のあり方を大きく変えた主な要因として正しいものはどれですか。（2020年 群馬県公立入試 類似）

1. ポルトガル人から輸入するのみで、国内の需要をすべてまかなうことができたため
2. 室町幕府が鉄砲の製造を独占し、全国の大名に無償で配布したため
3. キリスト教の布教を許可した大名に対してのみ、スペインが鉄砲を贈呈したため
4. 堺や国友などの都市の職人が高い技術を用いて、鉄砲の国内生産を可能にしたため

問2　武士に関わる法律の歴史について、鎌倉時代に北条泰時が制定した「御成敗式目」、江戸時代に幕府が大名を統制するために制定した「武家諸法度」、そして戦国時代に各大名が領国支配のために制定した法律を順に並べたものとして適切なものはどれですか。（2020年 佐賀県公立入試 類似）

1. 御成敗式目 － 分国法 － 武家諸法度
2. 御成敗式目 － 武家諸法度 － 分国法
3. 分国法 － 御成敗式目 － 武家諸法度
4. 武家諸法度 － 分国法 － 御成敗式目

問3　1549年に現在の鹿児島県にあたる地域へ来航し、日本に初めてキリスト教を伝えた宣教師の名前と、彼が所属していたカトリック教会の組織の組み合わせとして正しいものはどれか。（2020年 沖縄県公立入試 類似）

1. 鑑真（唐招提寺）
2. ペリー（アメリカ海軍）
3. フランシスコ・ザビエル（イエズス会）
4. マルコ・ポーロ（東インド会社）

問4　戦国大名の朝倉氏が定めた「城郭の構築に制限を設ける規定」や、伊達氏が定めた「年貢を納めない農民への処罰に関する規定」など、当時の大名が独自に定めた法典が持っていた共通の目的として、最も適切なものはどれか。（2024年 奈良県公立入試 類似）

1. 室町幕府の将軍から授かった権限を、領民に広く知らしめること
2. 領国内の秩序を安定させ、軍事・経済の両面から支配体制を強化すること
3. すべての裁判を天皇や公家が行うという原則を確立すること
4. 土地をすべて公有とし、農民に平等に配分して税収を安定させること

問5　戦国時代において、各地の戦国大名が自らの領国（分国）内の武士や民衆を統制し、領国内の秩序を維持するために独自に制定した法律を何といいますか。（2024年 千葉県公立入試 類似）

1. 分国法
2. 御成敗式目
3. 公事方御定書
4. 武家諸法度

問6　応仁の乱ののち、各地に登場した戦国大名が、自らの領内の武士や農民の行動を厳しく取り締まり、領地の安定と統治を強めるために独自に制定した法律を何といいますか。（2016年 群馬県公立入試 類似）

1. 公事方御定書
2. 武家諸法度
3. 分国法
4. 御成敗式目

問7　1543年に種子島に漂着した船により、日本に初めて鉄砲が伝えられました。当時の種子島の鍛冶職人がその仕組みを学び国産化を進めたといわれる、この武器を日本に伝え、後に長崎などを拠点にキリスト教の布教を伴う貿易を行った国はどこですか。（2016年 長野県公立入試 類似）

1. ポルトガル
2. スペイン
3. オランダ
4. イギリス

問8　会津地方を治めた蘆名氏や伊達氏が活躍していた日本の戦国時代において、世界で同時に起こっていた出来事として最も適切なものはどれですか。（2018年 福島県公立入試 類似）

1. フランスで市民が自由と平等を求めて革命を起こした
2. ドイツのルターが聖書に基づき教会の腐敗を批判した
3. アラビア半島でムハンマドがイスラム教を創始した
4. アメリカで奴隷制をめぐり南北戦争が勃発した

問9　1549年、日本の鹿児島に上陸し、キリスト教を日本に初めて伝えたイエズス会の宣教師は誰ですか。（2017年 京都府公立入試 類似）

1. マルコ・ポーロ
2. ヴァスコ・ダ・ガマ
3. フランシスコ・ザビエル
4. マゼラン

問10　戦国大名の本拠地として発達した「城下町」の形成と役割について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2017年 大分県公立入試 類似）

1. 農民が武器を持って城下町に集まることを推奨し、有事の際の防衛力を高めた。
2. 海外との貿易を独占するため、すべての城下町は海岸沿いの港町に隣接して造られた。
3. 大名が家臣や商工業者を城の周辺に集めて住まわせ、政治・軍事・経済の拠点とした。
4. 戦乱による被害を避けるため、城の周囲には武士のみを住まわせ、商人には立ち入りを禁じた。

問11　16世紀のポルトガルによる日本への鉄砲伝来やキリスト教の布教は、当時のヨーロッパにおける宗教的情勢と深く関わっています。カトリック諸国がアジアへの進出を強めた背景について、正しい用語を組み合わせた説明を選びなさい。（2021年 愛知県公立入試 類似）

1. ルネサンスの影響で誕生したプロテスタントが、カトリックを国外へ追放するために海外進出を支援した。
2. 宗教改革によって誕生したプロテスタントに対抗し、カトリックが海外進出を通じて勢力拡大を図った。
3. 十字軍の遠征によってカトリックが衰退したため、新しく誕生したプロテスタントが海外貿易を主導した。
4. 宗教改革を弾圧したカトリック諸国が、プロテスタントと協力してアジアでのキリスト教布教を進めた。

問12　戦国大名が領国内の武士や民衆を統制するために定めた「分国法（分国章程）」に関連する記述として最も適切なものはどれですか。なお、法の中には家臣同士の私的な争いを禁じる「喧嘩両成敗」などの規定が含まれているものとします。（2018年 秋田県公立入試 類似）

1. 家臣たちが実力で主君をしのぐ下剋上の動きを抑え、領内の秩序を維持するために制定された。
2. 農民が団結して一揆を起こすことを推奨し、幕府の権威を完全に否定するために制定された。
3. 全国の戦国大名が共通のルールを持つことで、大名間の和平を促進するために制定された。
4. 朝廷から与えられた公家法をそのまま適用し、京都の文化を地方に広めるために制定された。

問13　戦国時代、各地の戦国大名は自らの実力で領国を統治するために独自の法令を制定しました。これらの法令において、「家臣同士が勝手に婚姻を結ぶことを禁止する」や「領国内での勝手な築城を禁止する」といった項目が盛り込まれた主な目的として、最も適切なものはどれですか。（2024年 東京都公立入試 類似）

1. 朝廷から与えられた守護としての権限を、隣接する他の領国へ拡大するため
2. 鎌倉幕府が定めた御成敗式目の内容を、全国の農民に分かりやすく広めるため
3. 江戸幕府が定めた武家諸法度を遵守し、将軍への忠誠心を示すため
4. 領国内の家臣や国衆の結びつきを制限し、大名による領国支配を強化するため

答え合わせ・解説

問1	答え 4 堺や国友などの都市の職人が高い技術を用いて、鉄砲の国内生産を可能にしたため	種子島に伝来した鉄砲は、当時の優れた鍛冶技術を持っていた堺（大阪府）や国友（滋賀県）の職人たちの手によって、すぐに構造が研究され「国内生産」が行われるようになりました。これにより、高価な輸入品に頼ることなく大量の鉄砲を確保することが可能になり、戦国大名の間に広く普及しました。輸入のみに依存していたとする説は、当時の広範な普及の実態とは異なります。
問2	答え 1 御成敗式目 – 分国法 – 武家諸法度	1232年に鎌倉幕府が定めた御成敗式目は、武家社会における最初の体系的な法律です。その後、戦国時代に各地の大名が分国法を定め、江戸時代に入ると、1615年に徳川秀忠の代で全国の大名を統制するための武家諸法度が制定されました。分国法は、幕府による全国的な法支配が途絶えていた時期に、地域限定で機能した法という位置づけになります。
問3	答え 3 フランシスコ・ザビエル（イエズス会）	16世紀、宗教改革に対抗してカトリック教会の立て直しを目指したイエズス会は、海外への布教活動を積極的に行いました。その創設メンバーの一人であるフランシスコ・ザビエルは、インドのゴアを経て鹿児島に上陸し、日本での布教を開始しました。これが日本におけるキリスト教伝来の始まりです。
問4	答え 2 領国内の秩序を安定させ、軍事・経済の両面から支配体制を強化すること	戦国大名は、家臣が勝手に城を築くことを制限して反乱を防止したり、年貢の徴収を徹底して軍事費を確保したりすることで、領国の支配を確実なものにしようとしました。分国法は、戦国時代を勝ち抜くための「富国強兵」を目指した統治の仕組みです。幕府の権威が及ばなくなった時代背景を反映しています。
問5	答え 1 分国法	室町幕府の権威が衰退した戦国時代、各地の大名は自らの実力で領国を治める必要がありました。そこで、家臣同士の私的な争いを禁じる「喧嘩両成敗」の規定や、年貢に関する取り決めなどを定めた独自の法を制定しました。江戸幕府が制定した「公事方御定書」とは時代背景が異なります。
問6	答え 3 分国法	室町幕府の権威が衰えた戦国時代、各地の戦国大名は実力で領地を支配する必要がありました。そこで、家臣同士の私的な争いを禁じる「喧嘩両成敗」の原則などを盛り込んだ独自の法を定め、領国内の秩序を維持しようとしました。鎌倉時代の御成敗式目や、江戸時代の武家諸法度とは制定された時代や目的が異なります。
問7	答え 1 ポルトガル	1543年に種子島へ鉄砲を伝えたのはポルトガル人です。この出来事をきっかけに、日本国内で鉄砲の量産が始まり、戦国時代の戦術が大きく変化しました。また、ポルトガルとの貿易は「南蛮貿易」と呼ばれ、キリスト教の布教と密接に結びついていたことが特徴です。
問8	答え 2 ドイツのルターが聖書に基づき教会の腐敗を批判した	日本の戦国時代は主に15世紀後半から16世紀にかけての時期を指します。この時期、世界ではルターによる宗教改革が始まり、キリスト教の世界に大きな変化が起きていました。南北戦争は19世紀、フランス革命は18世紀末、イスラム教の創始は7世紀の出来事であり、日本の戦国時代とは時期が異なります。
問9	答え 3 フランシスコ・ザビエル	スペイン出身の宣教師で、カトリック教会の改革を目指したイエズス会の創立メンバーの一人です。1549年に鹿児島へ到着し、その後、山口や京都などで布教活動を行いました。当時、ヨーロッパでは宗教改革が起こっており、カトリック教会は新たな信者を得るために海外への布教に力を入れていました。
問10	答え 3 大名が家臣や商工業者を城の周辺に集めて住まわせ、政治・軍事・経済の拠点とした。	戦国大名は、それまで各地の領地に散らばっていた家臣を城の周囲に集住させることで、軍事的な動員を容易にし、統制を強めました。また、商工業者も呼び寄せることで、武器の製造や物資の流通を活発化させ、領国の経済を発展させました。これが後の近世都市の原型となりました。
問11	答え 2 宗教改革によって誕生したプロテスタントに対抗し、カトリックが海外進出を通じて勢力拡大を図った。	当時のヨーロッパでは、宗教改革の進展によってキリスト教の世界がプロテスタントとカトリックに二分されていました。特にポルトガルやスペインなどのカトリック諸国にとって、海外進出は単なる商業的な利益だけでなく、プロテスタントに対抗してカトリックの教えを世界に広めるという重要な使命を持っていました。このため、大航海時代の進出は貿易とキリスト教の布教が一体となって進められました。
問12	答え 1 家臣たちが実力で主君をしのぐ下剋上の動きを抑え、領内の秩序を維持するために制定された。	戦国大名は、実力至上主義による下剋上が自分の身に及ぶことを防ぐ必要がありました。そのため、家臣間の私闘を禁じ、大名の裁決に従わせることで領国支配を安定させようと分国法を制定しました。一揆はむしろ大名が警戒し、鎮圧すべき対象でした。
問13	答え 4 領国内の家臣や国衆の結びつきを制限し、大名による領国支配を強化するため	戦国大名は、室町幕府の権威が衰退する中で、自らの実力で領地を治める必要がありました。分国法は、家臣たちが勝手に同盟を組んだり（婚姻の制限）、独自の軍事拠点を持ったり（築城の制限）することを防ぎ、大名を中心とした一元的な統治体制を築くために制定されました。これにより、領国内の紛争を裁定し、団結力を高める狙いがありました。

戦国時代

名前

問1　鉄砲の伝来がその後の日本の戦い方や社会に与えた影響として、最も適切な説明を選びなさい。（2014年 沖縄県公立入試 類似）

1. 集団戦法が主流となり、強力な火力から守るための堅固な城が築かれるようになった。
2. 鉄砲の製造が困難であったため、一部の特権階級のみが儀礼用として保持した。
3. 武士個人の技術がより重視されるようになり、刀や弓矢による一騎打ちが増加した。
4. 外国との交易が危険視されたため、すぐに鉄砲の使用や製造が全面的に禁止された。

問2　16世紀の戦国時代、室町幕府の権威が衰退する中で、各地の実力者である戦国大名が自らの領国を独自に統治するために制定した法律を何というか、名称を答えなさい。（2017年 茨城県公立入試 類似）

1. 公事方御定書
2. 分国法
3. 御成敗式目
4. 墾田永年私財法

問3　戦国大名による領国支配の実態について述べた文として、当時の法律の内容や背景から考えて正しいものはどれか。（2024年 奈良県公立入試 類似）

1. 伊達氏の法典では、農民が年貢を納められない場合に備え、納税を免除する権利を認めた。
2. 分国法においては、武士同士の紛争はすべて室町幕府の裁判所に委ねるよう定めていた。
3. これらの法律は、全国の戦国大名が合議によって作成した全国共通のルールであった。
4. 朝倉氏の法典では、代官の配置や城郭の制限を通じて家臣の勢力拡大を抑えようとした。

問4　豊臣秀吉による朝鮮出兵が始まった1592年（文禄の役）よりも前の時代に、世界で起こった歴史的出来事として正しいものを答えなさい。（2017年 高知県公立入試 類似）

1. アメリカ合衆国で、奴隷制の存廃をめぐって北部と南部の対立が深まり、南北戦争が始まった。
2. ドイツにおいて、当時として最も民主的といわれたワイマール憲法が制定された。
3. ポルトガルの航海者バスコ・ダ・ガマが、アフリカ大陸の喜望峰を経てインドに到達した。
4. フランスにおいて、市民が自由と平等を求めて蜂起し、フランス革命が起こった。

問5　戦国時代の日本において、全国統一の動きを加速させる要因となった鉄砲について、その伝来の経緯を説明したものとして正しいものはどれか。（2016年 群馬県公立入試 類似）

1. キリスト教の布教を目的としたスペイン人の宣教師によって、平戸で初めて紹介された。
2. 種子島に漂着したポルトガル人によって、1543年に伝えられた。
3. 元寇の際に、元軍が使用していた「てつはう」を日本側が改良して国産化した。
4. 日明貿易の進展に伴い、日本の商人が中国から直接買い付けて持ち帰った。

問6　戦国時代の社会的な特徴の一つである「下剋上」という現象について、その内容を正しく説明しているものはどれですか。（2018年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 武士が自分の土地を直接支配するために、公家に土地を返還させること
2. 実力のある者が、それまで自分より上の身分であった者の地位を奪い取ること
3. 天皇を中心とした政治体制を復活させるために、幕府を倒そうとすること
4. 農民や地侍が団結して、領主に対して年貢の減免などを要求すること

問7　1549年に現在の鹿児島県にあたる地域へ来航し、日本に初めてキリスト教を伝えた宣教師の名前と、彼が所属していたカトリック教会の組織の組み合わせとして正しいものはどれか。（2020年 沖縄県公立入試 類似）

1. マルコ・ポーロ（東インド会社）
2. ペリー（アメリカ海軍）
3. 鑑真（唐招提寺）
4. フランシスコ・ザビエル（イエズス会）

問8　戦国時代の九州を代表する大名で、現在の府内（大分市）を拠点にキリスト教を保護し、有馬晴信や大村純忠とともにローマ教皇のもとへ「天正遣欧少年使節」を派遣した人物は誰ですか。（2025年 京都府公立入試 類似）

1. 大友宗麟
2. 北条氏康
3. 今川義元
4. 朝倉義景

問9　戦国大名が制定した「分国法」には、家臣同士が私的な理由で争うことを厳しく禁じる「喧嘩両成敗」の規定が多く含まれています。このような規定が多くの大名によって導入された背景として、最も適切な理由はどれですか。（2023年 栃木県公立入試 類似）

1. 貨幣経済が浸透し、武士が戦うことよりも商業に従事することを推奨したから。
2. 家臣たちの不満を解消するために、すべての裁判を幕府の裁定に委ねる必要があったから。
3. 海外から伝来したキリスト教の教えに基づき、平和な社会を築くことが求められたから。
4. 家臣同士の私闘による戦力の消耗を防ぎ、大名を中心とした組織的な団結を固めるため。

問10　1549年、日本の鹿児島に上陸し、キリスト教を日本に初めて伝えたイエズス会の宣教師は誰ですか。（2017年 京都府公立入試 類似）

1. フランシスコ・ザビエル
2. ヴァスコ・ダ・ガマ
3. マゼラン
4. マルコ・ポーロ

問11　戦国大名の朝倉氏が、拠点である一乗谷において、それまで各領地にいた有力な家臣をすべて城下町に移住させた目的として、最も適切な説明を選びなさい。（2022年 熊本県公立入試 類似）

1. 家臣を海外貿易の拠点に近い沿岸部に集め、輸入品を独占的に管理させるため
2. 家臣を農村から切り離して監視下に置き、大名の支配力と軍事動員力を高めるため
3. 家臣に領地の経営を完全に任せることで、大名が外交や文化活動に専念するため
4. 家臣に独自の関所を設置させることで、商工業者から税を徴収しやすくするため

問12　戦国時代の甲斐国（現在の山梨県）を治めた武田氏が定めた「甲州法度之次第」のように、各地の戦国大名が領国支配のために定めた法について、その特徴を説明したものとして適切なものはどれか。（2021年 京都府公立入試 類似）

1. 鎌倉幕府が定めた御成敗式目をそのまま引用し、全国一律の公平な裁判を保証した。
2. 全国の公家を統制し、儀式や行事のあり方を細かく規定することで天皇の権限を制限した。
3. 家臣同士の私的な争いを禁じる喧嘩両成敗などの規定を設け、大名による裁判権を強化した。
4. 朝廷が定めた律令制度を復活させ、中央集権的な国家体制を再構築することを目指した。

問13　戦国時代の都市についてまとめられた資料において、「有力な商人による自治的な運営が行われていたこと」「種子島に伝来した鉄砲の主要な生産拠点となったこと」「千利休などの商人がわび茶の文化を完成させたこと」という3つの特徴を持つ、現在の大阪府に位置する港町はどこですか。（2023年 滋賀県公立入試 類似）

1. 平戸
2. 長崎
3. 博多
4. 堺

答え合わせ・解説

問1	答え 1 集団戦法が主流となり、強力な火力から守るための堅固な城が築かれるようになった。	鉄砲の普及により、それまでの騎馬武者による一騎打ち中心の戦い方から、足軽による集団戦術へと大きく変化しました。織田信長が長篠の戦いで鉄砲隊を活用したことはその代表例です。また、鉄砲や大砲の攻撃に耐えるため、石垣を高く積み上げ、広い堀を持つ巨大な城郭が築かれるようになるなど、軍事・建築の両面に大きな変革をもたらしました。
問2	答え 2 分国法	戦国時代、守護大名に代わって実力で領地を支配した戦国大名は、家臣の統制や領国内の治安維持、年貢の徴収などを目的として独自の法を定めました。これは大名の支配権が及ぶ「分国（領国）」にのみ適用されたため、このように呼ばれます。選択肢にある御成敗式目は鎌倉時代、墾田永年私財法は奈良時代、公事方御定書は江戸時代のものです。
問3	答え 4 朝倉氏の法典では、代官の配置や城郭の制限を通じて家臣の勢力拡大を抑えようとした。	分国法は各戦国大名が領国の実情に合わせて個別に定めたもので、内容は多岐にわたります。朝倉氏の事例のように、家臣が勝手に拠点を作ることを禁じたり、役人（代官）を適切に配置したりする規定は、大名による中央集権的な支配を強める意図がありました。一方で、伊達氏の事例に見られるように、年貢の未納に対しては厳しい処罰を科すなど、農民に対しても強い統制を行っていました。
問4	答え 3 ポルトガルの航海者バスコ・ダ・ガマが、アフリカ大陸の喜望峰を経てインドに到達した。	日本の安土桃山時代における朝鮮出兵（1592年）と比較して、バスコ・ダ・ガマのインド航路到達は1498年（15世紀末）の出来事であり、約100年ほど早い時期に当たります。他の選択肢であるフランス革命は18世紀末、南北戦争は19世紀、ワイマール憲法の制定は20世紀の出来事であり、いずれも日本の江戸時代後期から大正時代にかけての事象です。
問5	答え 2 種子島に漂着したポルトガル人によって、1543年に伝えられた。	鉄砲は1543年、鹿児島県の種子島に漂着したポルトガル人によって伝えられました。当時の島主であった種子島時堯がこれを買い取り、刀鍛冶に命じて国産化を試みたことが、その後の日本国内での普及につながりました。モンゴル襲来時に使用された「てつはう」は火薬を用いた投擲武器であり、火縄銃とは構造が異なります。
問6	答え 2 実力のある者が、それまで自分より上の身分であった者の地位を奪い取ること	下剋上は、中世から近世へと社会が激変する過程で現れた「実力主義」を象徴する動きです。それまでの家柄や伝統的な上下関係よりも、軍事力や経済力、政治的な手腕が重視されました。これによって、出自が低くても能力があれば一国の主（戦国大名）になれる道が開かれ、織田信長や豊臣秀吉のように、古い権威に縛られない新しい統治を行う勢力が登場する土壌となりました。
問7	答え 4 フランシスコ・ザビエル（イエズス会）	16世紀、宗教改革に対抗してカトリック教会の立て直しを目指したイエズス会は、海外への布教活動を積極的に行いました。その創設メンバーの一人であるフランシスコ・ザビエルは、インドのゴアを経て鹿児島に上陸し、日本での布教を開始しました。これが日本におけるキリスト教伝来の始まりです。
問8	答え 1 大友宗麟	大友宗麟は豊後（大分県）を本拠地とした有力な戦国大名です。フランシスコ・ザビエルの布教を認めて以降、キリスト教を厚く保護し、海外貿易を積極的に行いました。1582年には、伊東マンショら4人の少年をローマへ派遣する使節の送り主の一人となりました。
問9	答え 4 家臣同士の私闘による戦力の消耗を防ぎ、大名を中心とした組織的な団結を固めるため。	戦国時代は常に他国からの侵略のリスクがあったため、大名にとって家臣団の結束は死活問題でした。家臣同士が私的な遺恨で争い、戦力が削られることを防ぐため、分国法を通じて「争いの理由は問わず、両者を処罰する」という厳しいルールを課し、紛争の解決は大名による裁判に委ねさせることで、主君としての統制力を強めようとしたのです。
問10	答え 1 フランシスコ・ザビエル	スペイン出身の宣教師で、カトリック教会の改革を目指したイエズス会の創立メンバーの一人です。1549年に鹿児島へ到着し、その後、山口や京都などで布教活動を行いました。当時、ヨーロッパでは宗教改革が起こっており、カトリック教会は新たな信者を得るために海外への布教に力を入れていました。
問11	答え 2 家臣を農村から切り離して監視下に置き、大名の支配力と軍事動員力を高めるため	戦国大名は、家臣が自分の領地に深く根を下ろしていると反乱の恐れがあると考え、一乗谷のような拠点に家臣を住まわせることで直接的な監視を行いました。同時に、一箇所に家臣やその兵力を集めることで、戦時に迅速な出陣が可能となる軍制を構築しました。これは、後の豊臣秀吉らによる「兵農分離」へとつながる重要な政策です。
問12	答え 3 家臣同士の私的な争いを禁じる喧嘩両成敗などの規定を設け、大名による裁判権を強化した。	分国法は、戦国大名が家臣団を統制し、領国を安定させることを目的としていました。特に「喧嘩両成敗」の規定は、武士同士が私的な武力で行使していた解決を禁じ、大名の判断に従わせることで領国内の紛争を抑える重要な仕組みでした。
問13	答え 4 堺	戦国時代の堺は、会合衆（えごうしゅう）と呼ばれる有力な商人が中心となって自治的な町運営を行っていました。堀を巡らせて自衛を行うほど経済力と組織力を持っており、鉄砲の生産や茶の湯といった文化の面でも、日本の歴史上重要な役割を果たしました。